

少年非行・犯罪に関わる地下経済

～少年・少女によって生み出されるアングラ・マネーは年間 4242～4729 億円～

2006年 1 月 6 日 (金)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: vermeer@pa3.so-net.ne.jp

～要 旨～

日本の地下経済は、バブル崩壊以降縮小傾向をたどっている。地下経済が縮小しているのは、景気の低迷や減税などによって、全体の 7 割を占める脱税額が減少しているためだ。しかし、暴力団の非合法所得やセックス産業の非合法所得など犯罪にかかわる地下経済活動は 90 年代後半以降も不気味に増殖を続けている。地下経済が量的に縮小傾向にあるといっても、社会的なダメージの大きい犯罪活動が拡大傾向にあるのだから、日本の地下経済は質的にはむしろ悪化していると見たほうがよいだろう。そして、犯罪にかかわる地下経済が拡大している背景のひとつに、少年非行・犯罪の横行がある。

日本の地下経済の推計結果について、少年・少女（18 歳未満）に関わる部分を抽出してみると、援助交際をはじめとする風俗関連は 3243 億円～3537 億円、違法ドラッグ関連は 236～429 億円、万引きは 76.3 億円となっており、総計では年間 4242 億円～4729 億円もの巨額マネーが少年・少女たちによって動かされていることが分かる。個別の少年非行・犯罪を積み上げてマクロ経済の視点でとらえれば、彼らは毎年何千億円ものアングラ・マネーを新たに生み出しているのだ。

日本の地下経済は、バブル崩壊以降縮小傾向をたどっている。地下経済が縮小しているのは、景気の低迷や減税などによって、全体の 7 割を占める脱税額が減少しているためだ。しかし、暴力団の非合法所得やセックス産業の非合法所得など犯罪にかかわる地下経済活動は 90 年代後半以降も不気味に増殖を続けている。地下経済が量的に縮小傾向にあるといっても、社会的なダメージの大きい犯罪活動が拡大傾向にあるのだから、日本の地下経済は質的にはむしろ悪化していると見たほうがよいだろう。

そして、犯罪にかかわる地下経済が拡大している背景のひとつに、少年非行・犯罪の横行がある。たとえば、覚せい剤を中心とする違法ドラッグの密売市場の規模は 90 年代に入ってから高原状態で推移しているが、総計 1 兆円に及ぶ巨大なマーケットは、もっぱら少年や若者による薬物乱用によって底支えられ、闇勢力の収入源となっている。北朝鮮や中国などから安価な覚せい剤が大量に国内に持ち込まれ、それが暴力団から末端の密売人の手に渡る。密売人は、少年たちが多く集まる場所に入りし、携帯電話などで連絡をとりあって違法ドラッグを密売する。売人のなかには、覚せい剤を「やせ薬」と称して女子高生に売りつける者もいる。大量供給の影響により、各種の違法ドラッグの末端価格は、中高生が自分の小遣いで買える程度にまで値下がりしており、これが少年の薬物乱用を

一層深刻化させている。

違法ドラッグの取引や乱用は、クラブやカラオケ・ボックスなど何気ない遊び場所で行われることが多い。多くの若者が集うクラブやカラオケ・ボックスは、ドラッグの売買を行う場所、援助交際の交渉場所等、いろいろな役目を果たしているのだ。

一方、毎年高成長を続けるセックス産業の非合法所得についてみれば、これらの産業を供給面から下支えているのが、少女たちである。オモテの経済の雇用環境が悪化するなかで、女子大生の一部はキャバクラやファッションヘルス、ピンクサロンなどで働いている。また、一部の女子中高生も小遣い稼ぎを目的として、風俗産業の世界に飛び込んでいる。18歳未満の女子中高生は未成年なので、法律上、風俗産業で働くことは禁じられているのだが、実際には、かなりの数の女子中高生が風俗産業で働いていると考えられる。筆者の推計によれば、風俗産業で働く女性は、全国で14万600人であるが、その20% (2万8120人) 程度は18歳未満と考えられる。女子中高生を雇う風俗店の側からすれば、ライバル店の新規出店が相次ぎ他店との競争が激しくなるなか、若い女の子をセールス・ポイントにしなければ、生き残っていけないという事情もある。

もっと手っ取り早くお金を稼ぐため、風俗店への登録を飛び越して、じかに不特定多数の成人男性と交渉する「援助交際」の市場に入ってくる女子中高生も多い。お金に執着する女子高生の実態を示すこんなエピソードもある。

図表 1 少年非行・犯罪に関わる地下経済の大きさ

単位：10億円

	下限値	上限値	構成比(%)	推計年次
ソーブランドでの就業	133.0	147.7	31.2	2003年
ファッション・ヘルス、イメージクラブでの就業	66.4	66.4	14.0	2003年
デリバリーヘルスでの就業	55.4	55.4	11.7	2003年
ホテルでの就業	20.8	20.8	4.4	2003年
援助交際	48.8	63.4	13.4	2003年
覚せい剤の乱用	14.4	33.7	7.1	2003年
ヘロインの乱用	0.3	0.3	0.1	2003年
コカインの乱用	0.0	0.0	0.0	2003年
乾燥大麻の乱用	4.2	4.2	0.9	2003年
大麻樹脂の乱用	1.6	1.6	0.3	2003年
MDMA(合成麻薬)の乱用	3.0	3.0	0.6	2003年
転売を目的とした書店での万引き	47.0	47.0	9.9	2002年
転売を目的としたドラッグ・ストアでの万引き	29.3	29.3	6.2	2002年
合計	424.2	472.9	100.0	

(出所) 各種資料より筆者推計、構成比は上限値をもとに算出。

埼玉県熊谷市の高校3年生A子（17）は、出会い系サイトを通じて知り合った男（23）とカー・セックスで8万円をもらう約束をした。しかし、男は情事が終わると、「金なんか払えるか」とA子の顔を殴ったうえ、車外に放り出して逃走。しかし、A子は走り出した車のボンネットにしがみつき、鬼のような形相で「金払え！」と叫び続け、そのまま1.4キロも走行。力尽き、車から振り落とされたA子は頭やひざにケガを負ったが、熊谷署に直行し被害届を提出。車のナンバーから身元が割り出された男は逮捕されたという・・・。

また、書店やドラッグ・ストアなどで万引きし、盗んだ商品を中古販売店に転売したり、ネット・オークションに出品したりして、小遣い稼ぎをする少年もかなりの数に上る。しかも、おそろしいことに彼らは罪の意識を抱くことなくこうした犯罪に手を染めている。

日本の地下経済の推計結果について、少年・少女（18歳未満）に関わる部分を抽出してまとめたものが図表1である。抽出方法であるが、まず、セックス関連の非合法所得のうち「援助交際」については全額をそのまま計上、その他の業態については、18歳未満の就業割合（ヒアリングなどから20%と想定）を掛けて算出した。一方、違法ドラッグの市場規模については各薬物の検挙事犯のうち18歳未満の者が占める割合に基づき算出した。また、転売目的の万引きは全額をそのまま計上している。

試算結果を見ると、援助交際をはじめとする風俗関連は3243億円～3537億円、違法ドラッグ関連は236～429億円、万引きは76.3億円となっており、総計では年間4242億円～4729億円もの巨額マネーが少年・少女たちによって動かされていることが分かる。

個別の少年非行・犯罪を積み上げてマクロ経済の視点でとらえれば、彼らは毎年何千億円ものアングラ・マネーを新たに生み出しているのだ。